

# 熊本女子大学学報

No. 1 昭和44年11月20日(木)

発行所 熊本女子大学  
熊本市大江二丁目七番一号  
TEL 66-2201  
編集発行人 熊本女子大学広報委員会

## 信 頼 と 友 情

熊本女子大学長 村 中 末 吉

本学の学寮祭の第一日目の夕食会のとき、寮長のあいさつがあったが、その中に信頼と友情ということばがあった。この信頼と友情とが本学の学寮生活の基調であり、その結果として第一回の寮祭が結実したというような趣旨のあいさつであった。

わたくしはこのあいさつを聞いて、心から嬉しく思った。現代の社会にも、家庭にも、また大学にも、最も欠けているものは、この信頼と友情である。また相互の不信の結果は、相互の間に心の断絶が生まれるのである。

本大学も教官と学生との間に充分なる意志の疏通ができていないようである。特学費の問題、大学の運営に関する臨時措置法に対する賛成と反対の意見の対立の問題などについても、お互の意見についての理解がなされていないで、お互の間に誤解と思われる点もあるようである。

自分の主張や意見は絶対に正しいものであり、それと異なるものは絶対に非であると断定する態度は独善的である。相互に充分に話しあい、相手の意見を充分に理解しあった結果、はじめて結論を出すべきである。相手の意見を聞かずに、自分の考えや意見だけを正しいとして、相手に自己批判を求める態度は慎しむべきことである。

大学運営臨時措置についてはさきに公表したような理由で、わたくしは賛成した。この法律に対して賛成するのでも反対するのもこれは個人の自由であって、自分は反対であるから、賛成するものは自己批判せよと迫る態度は許されないことである。相手に要求をつきつける前に、相手と充分に話しあいをする必要がある。

そして、この話し合いの際は相互の立場を尊重し、相互の信頼と友情を基調として充分に意見を交換した

上で結論を出すべきである。

このようにして意志の疏通をはかり、教官と学生との間に断絶をなくさなければならない。

このたび、大学の広報紙をはじめて発行することになったのも、この断絶をなくし、相互の信頼を回復するためである。広報紙を通じて、大学の方針や意図を公表し、学生諸子の理解を深めたいと念願している。

片々たる広報紙ではあるが、これによって相互の信頼と友情が回復して、本大学をすぐれた大学へと推進させたいと思う。本大学においても、女子大学の理想像を追い求め、大学改革の立案をする委員会が設けられている。この委員会によって、女子大学改革の案が研究され、理想へ一步一步と進んでいくことと思う。この改革案については、学生諸子の意見をも充分に尊重したいと思っている。

第一回の広報紙の発刊にあたり、わたくしの希望を申し述べて、あいさつのことばに代えたいと思う。

## 光を求めて

内 田 辰 雄

最近の動きとして特に注目に価するものとしてあげられることは、いつれの大学においてもこれからの大学管理運営あり方、教育のあり方、研究体制のあり方などについて検討されはじめたことであろう。本学においても大学問題研究会が職員の総意によって誕生しようとしている。当然の事ながら吾々は夫々の立場から冷静に考え協力しなければならない。私は教養部について過去を反省し、将来のあるべき姿を設計しなければなるまいが、それには多くの参考資料が必要とな

ってくる。幸い、10月16、17の両日、熊本商科大学において第18回九州地区大学一般教育研究協議会が開催された。その中で「新情勢下における一般教育のあり方について」というシンポジウムがあった。これは一般教育の全般に亘るもので、熊本女子大学の一般教育に対しても参考になる点が多かった。今后「大学問題研究会」の中で活用すべきものと信じている。

### 各学科の動き

#### 国文学科日誌

- 4月12日(土) 国文談話会入会式  
午後1時より新入会員58名を迎える。
- 4月19日(土) 国文談話会による新一年生歓迎遠足  
場所 成道寺
- 5月18日(日) 八代、水俣方面へ春の文学散歩  
水島、野坂の浦を訪れ、水俣にて淇水文庫見学  
洲上毛銭旧居訪問
- 9月21日(日)22日(月) 西月本国語国文学会 (会場 本学西講堂)  
本年は本学が当番校となる。  
21日午前9時半より午後2時まで研究発表、2時半より4時半まで公開講演  
細川文庫展示 於図書館  
22日午前9時半より研究発表、午後1時より市内の文学遺蹟見学—大江義塾跡、漱石旧居、八雲旧居、阿部一族旧居、阿部弥市右衛門墓  
清原神社、蓮台寺—
- 11月8日、9日 福岡、佐賀方面へ秋の文学旅行の予定 (志賀島、唐泊、領巾振山、玉島川等)

#### 家政学科の専門科目増設

家政学科主任 野口サキ

家政学科で専門科目について研究をはじめたのは、昭和41年であった。

家政学科では従来被服関係、家庭保健関係・数学関係3方面があって、学生は関係別に開設された専門科目を履修することになっていたが、何れにも片寄らない円満な家庭学科としての科目開設がそのねらいであった。

その結果、数学関係の科目が廃止され、家族に関する科目や、家庭経済に関係ある科目・住居に関する科

目及び食物・児童に関する科目が増設されて数学関係をのぞく、35科目から47科目となり、結局12科目の増設となった。なお必修科目も11科目より13科目に増設されたが、必修科目以外の34科目については、学生は自由に選択して履修することができるようになった。

それは昭和43年の入学生すなわち現在の第2年次・第1年次の学生より、既に新専門科目によって履修されている。以上

#### 管理栄養士について

管理栄養士とは、栄養士の名称を用いて行なう栄養の指導のうち複雑または困難なものを行なう適格性を有する者として、厚生大臣の登録を受けた栄養士を云う(栄養士法第1条)

現在熊本女子大学の食物学科では栄養士の免許が取得できるのであるが、2年制大学でも栄養士の免許が取得でき、栄養士という点では同一視されているのが現状である。

本学だけでなく、4年制大学では、管理栄養士の免許が取得できると卒業後の発展が期待できるのではないかと考え、その免許が卒業と同時に取得できる管理栄養士養成施設になることを望んでいる。

本学の教授会は食物学科が管理栄養士養成課程(仮称)となることを予想し、その準備委員会が作られている。委員会では、本学の全体的問題や将来性等について考察を加え各方面の意見の上に立ったよりよき管理栄養士養成施設としなければならないと考えている(文責 管理栄養士養成施設準備委員会 副委員長 友田 燾)

### お知らせ

#### 事務職員の当直廃止について

庶務課

大学事務の合理化と能率向上を図るため、9月1日から宿日直勤務を廃止しました。以後は巡視1名で主として、火災予防、盗難防止等の業務に携っています。しばらくは、不便な点があるかも知れませんが、廃止の趣旨を理解いただき、今後の時間外事務運営にご協力ください。

なお、下記の点にご留意ください。

記

- 1 巡視の勤務場所は、本館玄関横から正門横の守衛室に移転しました。

2 各部室の鍵は、時間中は庶務課に保管していますが、時間外は守衛室に保管しています。時間外に鍵を必要とされる方は、守衛室に申し出てください。鍵の受払いは帳簿を備え付けています。

3 講義が終了と、各室とも戸締りを行います。時間外に講義室の使用許可を受けておられる方は、守衛室(時間内庶務課)へ申し出て鍵を受け取り使用後は必ず守衛室へ返納してください。

4 時間外は、放送施設の使用(呼出し)及び電話の呼出しはしません。ただし、電話呼出しについて緊急を要するものは別とします。

5 電熱器、ガス、その他火気及び戸締りに注意し、各室とも最後の退室者は異常がないか必ず確認してください。

6 正門の扉の開扉は概ね次のとおり行ないます。  
開扉 7時30分  
閉扉 18時30分

7 学内秩序維持のため、下校時間を厳守してください。時間外の施設使用については必ず庶務課へ

#### 補導厚生課だより

補導厚生課

卒業生は本年をもって2,470名となり、卒業生名簿をひらけば、「ほう、こんなところにも」と思わずつぶやきたくなるくらい、国内はもとより海外にまで住み、働いている。そのうち、ことしの就職者の筆頭は、教職と一般企業がおのおの35%を占め、かつ、半数以上が県内に就職している。

現在の4年に対する求人状況は、昨年の同期より約20余件多い。万国博覧会関係で、関西方面からの求人増は予想されるところであったが、最近ではホテルからの求人が目立ち、年年さかんになる旅行乃至レジャー産業の行方を見せている。相変わらず多いのが繊維、電気産業関係の学園教師と寮母であり、最近では中級の紡績会社からの求人もふえた。来春卒業予定者に対する初任給の最高は4万5千円である。

市内の中小企業からの求人も、学卒女子の採用によって新風を吹きこみたいとの傾向が強くなり、待遇も悪くない。求人申し込みは6月がぐんと多いが、一年中だらだらと絶え間ないのは、女子への求人の特色であろうか。現在の4年で決定しているのは、繊維、自動車航空、一般商社、万国博覧会関係である。

#### 教務課

昭和45年度 熊本女子大学入学試験について  
学力検査実施科目は

国語 現代国語・古典乙I O 社会 世界史B 数学 数学I・数学II B 理科 化学B・生物のうち1科目選択 外国語 英語Bです。

募集要項請求 昭和44年12月1日より

願書受付 昭和45年2月2日から2月15日まで。

入学試験期日 3月17日火曜、18日水曜の2日間。

合格発表 3月26日木曜 正午 本学掲示板。

#### 昭和44年度後期授業暦

週	日	月	火	水	木	金	土	行事
16週	10月			1	2	3	4	
17		5	6	7	8	9	10	10日体育の日
18		12	13	14	15	16	17	13日~18日 前期定期試験
		19	20	21	22	23	24	20日~25日 学生自宅研修
19(1)		26	27	28	29	30	31	
	11月						1	
20(2)		2	3	4	5	6	7	3日文化の日
21(3)		9	10	11	12	13	14	
22(4)		16	17	18	19	20	21	
23(5)		24	25	26	27	28	29	23日勤労感謝の日
		30						
24(6)	12月	1	2	3	4	5	6	
25(7)		7	8	9	10	11	12	
26(8)		14	15	16	17	18	19	
27(9)		21	22	23	24	25	26	27
		28	29	30	31			12月25日~1月10日 冬季休業(学期)
	1月					1	2	
		4	5	6	7	8	9	
28(10)		11	12	13	14	15	16	15日成人の日
29(11)		18	19	20	21	22	23	
30(12)		25	26	27	28	29	30	26日~31日 第4年次後期試験
31(13)	2月	1	2	3	4	5	6	
32(14)		8	9	10	11	12	13	11日建国記念日
33(15)		15	16	17	18	19	20	
34(16)		22	23	24	25	26	27	23~28日第3年次以下後期試験
35	3月	1	2	3	4	5	6	3日卒業式
		8	9	10	11	12	13	3月1日~24日 学生自宅研修
		15	16	17	18	19	20	3月17日~18日 入学試験
		22	23	24	25	26	27	3月25日~4月10日 春季休業
		29	30	31				
後期授業回数(除滅)		14	15	14	13	14	14	

#### 図書館だより

附属図書館

図書を利用しやすいように、充実した図書館にするために館員は日ごとと努力していますが、最近、新しいものとしては、つぎのようなものです。

- 1 四月から玄関横に新刊図書案内コーナーを備え

ました。図書館や研究室には入った図書のうち主なものを、本の空箱やジャケットを利用して展示しています。図書の購入状況が分りますので図書館には入られるときにはよってのぞいて見れば便利かと思ひます。

2 第十七回卒業生(四十四年三月)の皆さんが、在学中に図書の不足をなげき、せめて後輩の学生に利用していただききたいという気持で図書購入の基金を寄贈されました。各学科の先生から教養、専門図書の観点から推薦していただき購入しました。二階の第二閲覧室にこの図書を配架していますが、学生文庫の線の丸いラベルの中央に赤線がはいっている図書がこれです。先輩の意図をくみ、大切にしかも大いに利用して下さい。

3 四学科教養部による推せん図書については8月中旬発注したところ、現在95%着荷し目下整理中であり、残り5%は絶版或いは売切等のため入手出来ませんでした。近日中に整理登録のうえ指定図書閲覧室に配備する予定であります。

4 (イ) 図書館の避難はしごを館の北側に設定し万一の場合の安全を確保するよう準備しました。

(ロ) 2階第2閲覧室の長机を新しい机に取替え快適な学習ができるよう整備しました。

5 図書館には現在約5万冊の書籍を蔵し、教職員及び学生諸君の閲覧に供しています。ついでには図書はそれぞれ人の手にふれてよごれるおそれもあるので、図書館利用者の方々に清けつな感じを持って読書してもらおうと共に、図書の安全保存の意味を含めて10月1日から図書館の入口にクレゾール石鹼液と水を用意しました。今後図書館を利用消される方は先ず閲覧室に入室される前に手を洗い毒の後読書をしてもらい。また読書を終つて退室されるときも同様に消毒をくりかえしていただきたいものです。

めんどうなことのようにですが、衛生と保管管理の上で重要なことですから今後、じゅうぶんに利用して下さい。

## 人 事 異 動

学部長の任期満了による改選により、図書館長が学部長に選任されたため図書館長が空席となつたので、その後任の選挙及び学生部長柿村教授の辞任申し出でなる後任など、下記のとおり決定しました。

文家政学部長 山本捨三教授  
学生部長 乙益重隆教授

附属図書館長 原田益雄教授

以上 11月1日付発令就任

助教授 桑野暢子 10月31日付退職発令(千葉大学教育学部転任)

## 開 放 講 座 終 了

高令人口の増加と社会の急激な進展に伴い、高令者対策は、今日の最も重要な課題の一つである。

本学では、高令者の心身の健康保持や現代社会への適応について教授し、老人福祉の進展に寄与することを目的として、昭和39年度から老人福祉講座を開いてきた。



文部省の大学開放講座の委属を受け、本年度は、8月11日から9月4日まで毎週月曜日と木曜日だけ8日間白川公園内の熊本市社会教育会館で開講し、老人の最も関心が深い問題について講義を行なった。受講者は、郡市の指導者層とあって特に熱心で、毎年連続して受講している者もあり、通学時間に5時間もかかる阿蘇のいなから一回の遅刻もなく皆勤した人には感心させられた。

郡市部における地区講座として、10月22日人吉市文化センター、10月24日浜町中学校体育館の2箇所で行なったが、両会場とも450名の受講者が集まり盛会であった。

伊藤教授の「ここはお国の何百里」の軍歌に合わせた足踏みが始まると、昔日を思い出して合唱の声も次第に大きくなる。老人体操に思いきり手足を伸ばしたにこにこ顔の老人達「少し息がはずむばってんソニー気持の良か。」という批評。又原田教授の「老人期の心のもちかた」、柿村教授の「論語」、前田先生の「老人の食事について」の講義はいずれも好評であった。

大学の開放講座とは何だろうかといふかつていた地方の老人達も「こぎゃん良かこつなら、年に2回ずつどましてハイヨ。」という意見しきり。

正 誤 表

頁	場 所	誤	正
1 頁	右欄下から 8 行 6 字目	あ	の
4 頁	左欄上から 12 行 10 字目	緑	緑
//	左欄上から 31 行 21 字目	消	
∕	// // 33 行	欠字	消
∕	右欄下から 7 行 25 字目	欠字	ヤ